



平成21年度サイバーサイエンスセンター顕彰について

雑誌名	SENAC : 東北大学大型計算機センター広報
巻	43
号	2
ページ	87-87
発行年	2010-04
URL	http://hdl.handle.net/10097/00124574

[報告]

平成21年度サイバーサイエンスセンター顕彰について

平成 21 年度サイバーサイエンスセンター顕彰表彰式が行われました。

サイバーサイエンスセンターでは、平成 21 年度から、本センターを利用し顕著な貢献があった方や、永年にわたり本センターの運営に貢献した方などに対する顕彰制度を設けました。

第 1 回目の本年度は、本学大学院工学研究科の牧野正三教授に功労賞が授与されました。

表彰式は、平成 22 年 2 月 26 日（金）午後 1 時から本センター講義室で行われた第 8 回情報シナジー研究会冒頭に行われ、小林広明センター長から牧野正三教授へ表彰状と副賞が手渡されました。

牧野正三教授は、平成 7 年に本センターの前身である大型計算機センターの教授に就任と同時に同センターの研究開発部長となり、先端科学分野の研究者の要望を取り入れながら、平成 9 年に並列コンピュータ NX7000/460、Exemplar/X、ACOS3900、平成 10 年にはスーパーコンピュータ SX-4 の導入を推進し大規模科学計算システムの利用環境を飛躍的に高められました。また、センター教授就任中はもとより、大学院工学研究科へ異動されてからも本センターの各種委員としてセンター運営に多大な貢献をされました。

表彰式は、牧野教授がセンター在任中の思い出などを話され、終了しました。



『受賞者挨拶』

東北大学大学院工学研究科

牧野 正三

平成 7 年 4 月から平成 13 年 5 月まで研究開発部長として在任しました牧野です。このたび、サイバーサイエンスセンターから功労賞を頂き、大変ありがとうございました。連絡を頂くまでこのような賞があることを知らなくてびっくりしました。連絡を頂いた時には頂いてよいかどうか正直躊躇しました。

私の在任中に、センター収入は平成 5 年度に記録した最高の 1 億 3 千万円に比べて半減し、私が離任する直前の平成 12 年度には 6 千万円ぐらいになりました。そのため在任中は、歴代の事務長、歴代の会計掛長、岡部先生、伊藤システム管理掛長（当時）、加藤システム運用掛長（当時）等の皆さんとほとんど毎週集まっては、利用者の先生方にもっと利用してもらうためにどのように働きかけるかを相談し、全く知らない先生方に電話をかける飛び込み営業を行ったりしました。それでも足りないのどこを節約するか、あるいは新たな予算をどこから獲得するかなどの努力をしましたが、センターの先生方に配分する予算を大幅に減額したり、非常勤職員の一部の方には他部局に移動して頂いたり、本部の予算を利用するために職種を変更して頂いたり、関係された皆様にも多大なご迷惑をおかけする次第となりました。関係の方々に深くお詫び申し上げます。

そのような活動の中から、現在も続いている定額制や共同研究制度、高速化推進活動などの提案があり、センターの熱烈なファンを生む要因となり、またセンターの収入もある程度安定する結果となりました。これもひとえにセンターの皆様のお陰と感謝しております。

私は 3 月末で退職いたしますが、在任中のご厚誼に厚くお礼申し上げますとともに、サイバーサイエンスセンターの益々の発展と、センター教職員の皆様のご健康をお祈り申し上げます。

